

Students' Voice

在学生からの声



3年
杉原 愛海

留学について

私は派遣留学で約半年間タイにあるカセサート大学へ留学しました。もともと食糧問題等に興味があったことから、農業の重要性を感じ、農業普及や東南アジアの農業の現状について主に学んできました。また、課外活動として、写真部やスラムでのボランティア活動にも参加しました。

幸運なことに出会いにも恵まれ、多くの友人たちと共に過ごす中で文化や宗教の違いなど、大学の授業だけでは気づけなかった、様々なことに気づかされました。同時に日本の良さや、またタイから見習いたい部分など、さらに自分自身についても同様に考え直させられました。

留学中、農学の知識がほとんどない私は、劣等感を感じたり、自分の思い通りにいかず目的を見失いかけてたりすることもありましたが、留学前に自分が実現したかったことを思い返し、やり方を変えてみたり行動に移したりしたことで、結果的に目的以上のものを得られたと思います。

派遣留学は自分のやりたいことを自分次第で大きく実現できるものだと思います。留学の目的は人それぞれですが、行動していく中で何度もその目的に立ち返り、必要に応じて修正し、また行動に移すというサイクルが必要だと感じました。



4年
二上 瑛

学生生活について

国際教養学部では、幅広く学び、自分の思いを実現することができます。

国際教養学部は特定の専攻を設定していないため、学生が学びたいことを自由に選択することができます。このため同じ学部在籍しながら、自分の興味とは全く異なる専門を学んでいる学生も見られます。このことで好奇心が刺激され、高校時代よりも学ぶことが楽しいと感じています。

学業面以外では、友人とともに「LAS BOOKS」という国際教養学部独自の図書スペースを運営しています。新しい本と出会うことによって興味を広げる手助けをしたい、という思いからつくったこの図書スペースには、通常の図書館とは異なる特長を3点設けています。1点目は、自分の持っている本を自由に本棚に追加し、他の学生と共有できることです。2点目は、本をジャンル別ではなくあえて背表紙の色調順に並べることで、これまで自分が読まなかったジャンルの本と出会う工夫をしていることです。そして3点目は、自分の感想や見解を書いたふせんをページに残すことで、学生間の意見交換を可能にしていることです。国際教養学部では、このような学生独自の取り組みが他にも数多く運営されています。入学した際にはぜひみなさんも自分のアイデアを形にしてみてください。

